

山口県立熊毛南高等学校

学校概要

【学校教育目標】果敢に課題に挑戦し、主体的に未来を拓こうとする自立した生徒の育成

【設置学科】普通科

【生徒数】1年72人、2年60人、3年90人
(R4.2.1現在)



研究テーマ

多様な進路選択を行う生徒に対して、基礎学力を定着させ、学習意欲を向上させるための教科指導のPDCAサイクルを構築・確立する。

実施内容

◆ 使用した測定ツール

第2回スタディーサポート（ベネッセコーポレーション）

◆ 実施の概要

～1年間の流れ～



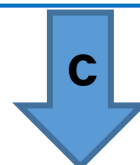
- 1年次生第1回スタディーサポート
- 第1回スタディーサポート結果の分析
- 第1回学力向上委員会開催（研究推進の方向性の確認）



- 授業公開週間 授業改善に関する研修会
- 第2回スタディーサポート（本事業の活用による測定ツール）
- 授業公開週間 実践研究報告



- 第2回スタディーサポート結果の分析
生徒の学習成果や課題、学習状況の変容等
- 第2回学力向上委員会（これまでの取組の成果や課題等の確認）



- 第3回学力向上委員会（年度における課題及び次年度の取組）



1年次のPDCAを2年次も継続実施

◆ 授業改善に関する研修会

- 「生徒の基礎学力の向上や学習意欲の喚起を図るための授業改善や教科指導のPDCAサイクルの構築・確立」 講師：岡山大学大学院 岡崎教授（R1）
- 「授業改善 小・中学校の教員は、何をしているのか」 講師：山口大学 中谷准教授（R2）
- 「スタディサプリ」に関する研修 講師：リクルート（R3）
「ICT技術を活用した個別最適な学びについて」
「時代に求められる資質・能力を伸ばす学び方について」

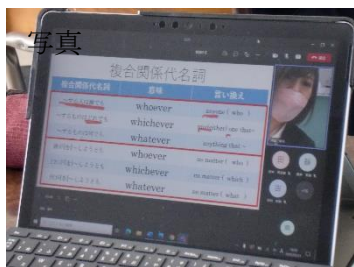
～研修後の教員の感想～

- ・教員の立場から授業を進めていくことばかりを考えていましたが、生徒目線で考えたときに、どのようにしたら意欲的に取り組めるかについても考える必要があると感じました。
- ・小学校、中学校の先生方の取組を客観的に知ることができてよかったと思います。特に、「ねらい」「見通し」「振り返り」などを板書することはすぐにできることだと思いました。
- ・子どもの姿を分析し、授業改善につなげていくことの必要性を再認識できました。

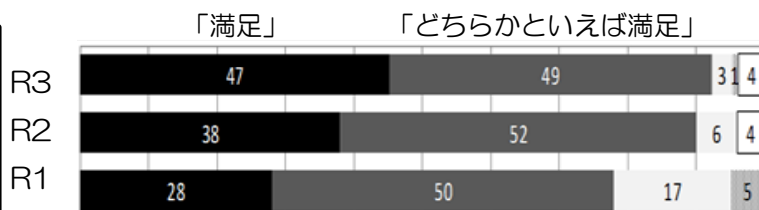
◆ 教員の授業改善の実践 ～教員の振り返りより～

- ・生徒の理解状況を毎回確認しながら、一方的な説明にならないように授業を行った。
- ・生徒同士でコミュニケーションを取ることができるようになった。
- ・発問を工夫することにより、生徒が自らの課題を見つけられるようになってきている。
- ・電子黒板とプロジェクターを活用し、効果的な授業が展開できた。
- ・授業動画は小テストや考査の前に多く再生され、生徒の自学にも有益であった。
- ・ジャムボードも継続利用し、ミートを使い授業配信することができた。
- ・ICTを活用した新しい教材づくりに取り組んだ。

◆ 学校評価 生徒アンケートより



学習指導に
対する
生徒の
満足度



3年間連続して「満足・どちらかといえば満足」が伸びている

【授業アンケートから】

- ・プリントが見やすく、分かりやすい。図や写真があるのでイメージしやすい。
- ・分からないところがあっても、しっかり説明してくれるのでとても助かる。
- ・班活動が楽しかった。 ・分かりやすくてよい。 ・質問をみんなにしてくれるので発言しやすかった。

◆ 成果のまとめ

- ①【教員】基礎学力定着のため「わかる授業」を行うことに対する認識の深化（研修等）
- ②【教員】学習状況等アンケート（年2回×3年間）を実施することによる事業の継続化
- ③【生徒】第2回スタディサポートを実施することによる学習時間の確保に対する意識の向上
- ④【学校】スタディサポートと学力向上委員会の実施によるPDCA サイクル校内体制の確立

実践研究の成果

- ◆ 教員の「分かる授業」への共通認識の浸透
- ◆ 生徒の学習に対するモチベーションの向上
- ◆ ICTを利用した授業改善の促進



学校ウェブページURL

<http://www.yunan-h.ysn21.jp/>